

真理を求めて～多角的なアプローチ

87年当時の日韓学生フォーラムでの対話

川那辺 康一
(日韓学生フォーラム)

1. はじめに

「To tell the truth I dislike Japanese」、87年夏、初めて韓国に行き、韓国の学生との合同合宿で相部屋の韓国学生から挨拶で言われた言葉だ。

自分は第3回日韓学生フォーラムに参加し、10日間のプログラムで韓国に訪れていた。日韓学生フォーラムは日米学生会議の参加者が韓国国際学生協会に働きかけた討論会を通じてできた日本で二番目に古い二国間学生交流団体だ。第1回は86年3月に2泊3日の日程で行われ、そのとき、日米学生会議と同じ様に毎年夏に行くことを決め、第2回目は86年8月に5泊6日の日程で、「21世紀に向けて日韓の学生に何ができるか」をテーマに全体討論を行った。

自分が参加した第3回目からはより本格的な討論を目指すことから、新たに4つの分科会と全体シンポジウムを設け、日程も10日間となり、参加者については、日本側は関東・関西の10大学から20名、韓国側はソウル大学20名、他にオブザーバーとして高麗大学から1名、韓国系米国人のシカゴ大学生1名の学生が集まり、ソウルの江南にある半島ユースホステルで行われた。本文では、87年の夏に戻り、学生同士どの様な議論がなされたかを中心に書き進めることとする。

2. 1年近くの勉強会を経て

自分は、86年の夏に参加の声がかかった。前年に日米学生会議に大学1年生ながら応募し、落選していたからだ。暫くして、日米学生会議のOBOGから連絡があった。「私達は今年の春に日韓学生フォーラムという団体を立ち上げました。まだ、メンバーは日米のOBOGしかいません。徐々に新規メンバーを増やしたいと思っています。英語で隣国の学生と直接討論することは意義があることだと思います。日米では御一緒できませんでしたが、一緒にやりませんか。」といった話だった。当時、自分、韓国について、隣国にも関わらず「金大中氏拉致事件」しか思いつかなかった。「隣国なのに何も知らない」ということに不自然さを感じ、「この機会に勉強し交流するのもいい」と思い参加することにした。

86年夏のプログラムが終わると同時に、87年夏の参加に向けて関東、関西両地域で勉強会が始まった。まず、何を勉強していいか分からなかった。一番の問題は韓国の学生と議題の相談やレジュメの交換などの郵便物を送ることは、軍事政権下の全斗煥大統領の元では開封され、韓国の学生がスパイ扱いされ

る可能性があることから、拒否されていたからだ。唯一決まっていたことは、86年夏に、87年は10日間の日程とし、政治、経済、文化、歴史の4つの分科会を行うことだった。

勉強会は1年近くに渡り毎週行った。皆で同じ本を読むこともあれば、個人の関心事に基づいて発表することもあった。勉強会が進むにつれ、自分達で、学生なりに、今、韓国で最も問題になっていることを勉強し、提言しよう。今、韓国で一番の問題である①民主化運動、②半島の統一問題、について勉強し、我々日本の学生なりにできることを提言しよう、という話になった。加えて、③歴史について、第2回に参加した先輩から「日本人は韓国の歴史、とりわけ近代史を全然勉強していない。」と強く言われていたので、提言とは関係なく、知識を増やす目的で丁寧に読むことにした。

日本での勉強会の後半は、学んだ言葉を英語で言いかえて発言することに時間を割いた。順調に勉強会が進む途中で、韓国から驚きの知らせが届いた。民主化運動が高まる中、87年5月の「百万人デモ行進」に続き民主正義党の盧泰愚代表から「6・29民主化宣言」がなされたことだ。内容は、「オリンピック終了後、然るべき手段で信を問う必要がある。」と、近く大統領直接選挙を示唆したことだ。自分達は、韓国では国民がデモを通じて政治を動かしたことに興奮し、自分達も韓国の民主化に寄与できるか議論する様になった。

3. 本会議での議論

87年8月3日、関西勉強会組は韓国に向けて大阪南港から86年にオリンピックに向けて就航したばかりの「オリンピア88」という船で釜山に向けて出発した。8月4日朝、釜山につき、ソウルまでの列車「統一号」の乗車まで時間があり、チャガルチ市場や龍頭山公園を散策し、夜、ソウルの江南にある半島ユースホステルに到着した。到着した日に日韓学生の相部屋発表があり、8月5日から10日間続くプログラムに向けて眠りについた。

8月5日は、全体シンポジウムと4つの分科会を行うことは決まっていたが、改めて議論の内容の調整から始まった。自分は政治分科会で議論した。私達が「シンポジウムか分科会のいずれかで①民主化問題を扱いたい。」と申し出ると、「民主化問題は我々にとっても最大の関心事だ。ただ、民主化の話を少しでもすると現政権の批判に繋がる。それは絶対避けたい。私達は「6・29民主化宣言」は信じていないし、大統領選挙も信じていない。一方、民主化を唱え運動していた仲間達の中には今も獄中にいる者もいる。今回、ユースホステルの会議室で日韓学生40名が集まっていることはそれだけでとても目立つ。普通の宿泊客のふりをした私服警官が監視して歩いていると認識を持ってもらいたい。」と言われた。また、何らかの議論で現政権の評価に関わる話ができれば、話をすぐに止め、その部分をメモしなければすぐに細かく千切り破棄する様に指示された。結論として、民主化の話は一切議題としないこととなった。

②半島の統一問題について同様に話したいと申し出ると、韓国の学生から「統一への道のりの話は構わないが、その前に分断国家となったことに対する日本の責任について話したい。今後の過程はそれから。」と言われた。

次に韓国の学生からの逆提案として、③歴史について、「韓日双方が歴史上関わった史実に対して、日

本人学生がどの様に考えているのか議題にしたい。」と提案があり、自分達も韓国の学生がどの様に思っているか知りたいと思ひ受け入れた。具体的には「元寇の役」「壬辰倭乱(秀吉の侵略)」「江華島事件」「明整皇后暗殺事件」「日韓併合」「ハーグ密使事件」「三一独立運動」などについて意見を伺いたいと言われた。日本の学生メンバーはこれらの事件について詳しくない者がほとんどだったが、自分は、日本側が責められる話題が多くバランスが悪いこと、「壬辰倭乱」から「江華島事件」まで間が開いていることから「朝鮮通信使」を加えることを提案した。

②の先の半島の統一問題は、韓国学生が「日本が半島を植民地にさえしなければ分断の苦しみを味わうことはなかった。」との主張に、自分は「植民地の責任については、多くの分野に波及するので、ここでは触れない。ただ、分断国家の責任は、終戦時、米国が、旧満州地域を進撃するソ連軍の動きから、「進撃を38度線で止めてくれ。」との要請にソ連が応じたことが直接的な原因と考えている。ただ、間接的には、そもそも植民地支配がなければこの様な問題が生じなかったので間接的な責任はあると思っている。」と話した。

すると、韓国の学生の一人が、「メモは絶対書かない様にしてくれ。」と言った後、声を低くして「北韓との統一問題は、非常にデリケートな話で、ひとつ間違えれば北韓に融合しているとみられかねない。ただ、言えることは、72年7月に統一への方法として「南北共同声明」が出され、その中で統一への方法として、「自主的、平和的、民族大団結」が示された。74年のクロス承認は、緊張緩和といった部分では評価するが、我々にとって大事な「自主的」統一という部分に反する。72年の南北共同声明に立ち返って考えたい。」と発言した。その学生はさらに声を落として、「韓国における米軍基地の存在は統一の障害になっている。」とまで言った。日本の自衛隊の存在に聴くと、「自衛隊は韓国に駐留していないが、軍隊に他ならないと思っている。今でこそ表面上韓国と友好関係だが、過去の歴史から決して信じていない。いつ韓国にとって脅威となるか分からないので、できる限り縮小して欲しい。」と言われた。

ただ、他の韓国の学生からは「南北共同声明とクロス承認は共存できる。まずは周辺諸国を通じての緊張緩和を優先してはどうか。」といった意見も出された。

③の歴史については、古代を除き、日韓に関係することを中世から近世まで時系列で議論する形をとった。ただ、説明の点でも知識の点でも完全な韓国の学生のペースで話が進められたことは覚えている。内容があまりにも多岐に渡るので、印象に残っていることのみ記載する。

「元寇の役」の話のとき、韓国学生が「日本は自分達が元を追い返したと言っているが、そうではない。我々の先祖の高麗軍が徹底して戦って、弱り切った元が日本に侵攻したから負けたのだ。だから、日本は高麗に感謝しなければならない。」との発言したことだ。自分は、高麗軍も元と一緒に日本に侵攻したと思っていただけに、認識の違いに驚いた。

「壬辰倭乱(秀吉の侵略)」では、誇らしげに李舜臣將軍の話がされていたのを覚えている。

「朝鮮通信使」は、唯一、韓国の学生から責められず、日本の学生から説明した。壬辰倭乱後、友好を回復するため、江戸幕府で將軍が交代する度にお祝いを兼ねて来られたこと。日本では最大級のもてなしをし、友好関係が長く続いたことを話した。

「韓国併合」は歴史認識で最も議論となった。まず、条約調印に際し、韓国の学生は、脅迫によってなされたものだから当初から無効であると述べた。脅迫によるものであったかの事実認定は難しいので、

ここではそこまで議論できないと応じた。また、69年作成の「条約法に関するウイーン条約」の内容に当てはまるかについても議論した。ウイーン条約は、それまでの条約に関する慣習法を成文化したもののだが、もし脅迫の元で行われたものとしても、ウイーン条約に定める51条「国の代表者に対する強制」、52条「武力による威嚇又は武力の行使による国に対する強制」が当時慣習法とされていたかは我々学生の議論を超えていた。「いずれにせよ、この議論を避けるため65年の日韓基本条約第2条で日韓併合条約は「もはや (allegedly)」無効と当時の議論を避けたのではないか、自分達ではこれ以上に掘り下げることはできない。」とし、また、日韓基本条約の評価まで踏み込むことはしなかった。

「三一独立運動」は、韓国の学生から万歳と叫ぶ非暴力を貫いた全国的な独立運動だったことを強調していた。特に韓国の学生は三一独立運動に特別な感情をもっていた様で、自分達の想いを熱心に語っていたのが印象的だった。

フィールドワークは、釜山のUN墓地、国立慶州博物館、慶州ナザレ園（日本の学生は事前に上坂冬子の「慶州ナザレ園」を読んでいたので訪問を希望していた）、三一独立運動の弾圧の象徴的な場である堤岩里（チェアムリ）教会、水原民俗村などを巡り、最後に翌年のオリンピックを控えた蚕室（チャムシル）のスタジアム建設現場に行った。

4. 就寝前の個人的な会話

夜の就寝前は、韓国の学生から「もうこの時間は宿泊客を装ったスパイはいない。」と言われ、熱い口調で全斗煥政権の悪口を言いながら、学生達が民主化運動の歌を歌い始めるのには驚いた。しかし、「もし歌のフレーズを覚えても絶対に韓国内で歌わないで。」と釘を刺された。また、韓国の学生は独立運動に誇りを持っていて、「韓国の独立運動家で好きな人物がいるか。」と聞かれると、「大韓民国臨時政府から暗殺されるまで最後まで統一国家に拘った点で金九、また、独立運動後も弾圧に決して屈しなかった点で韓龍雲に好感を持っている。」と言うと、韓国の学生皆から握手を求められた。そして、「日本人は嫌いだが、おまえはいいやつだ。」と何度も繰り返し言われた。

また、就寝前は、4か月後に迫った大統領選も話題となった。日本での勉強会では金大中氏の弱点は全羅道以外に支持が広がらないからだと聴いていたが、全羅道出身の学生はもちろん、ソウル出身の学生にも金大中の支持者が多かったのには驚いた。韓国の学生は政治の話が好きだが、昼間は何もなかったかの様に一切政治の話はしないという点は、それだけ言論弾圧が今も続いていることの証左だろうと考えさせられた。

最終日の8月13日は今後の方針が話し合われた。第1回目から今回の3回目まで韓国で開催したが、隔年で韓国日本と開催する方向にもっていけないか議論した。最大の問題は87年時点では、韓国の学生の海外自由渡航が認められていないことだった。8月14日は日本の学生だけで残り、来年度の進め方について話し合った。

5. その後

その後、自分は、現役生の学生に対し、財政面や勉強会のアドバイスをすることにより、30年以上関わった。毎年、現役の学生には「議論のぶつかり合いを恐れず、自分の意見を言いなさい。そのほうが本音で語り合った仲間という意識が一生残るよ。」と言ってきたが、自分が知っている限り本格的な議論のぶつかり合いぶつかり合いというのはほとんど聞かれなかった。むしろぶつかり合いを避けてきながら会を重ねてきたというのが本当のところだろうと思っている。

個人的なことで恐縮だが2016年10月1日は自分にとって生涯忘れられない日となった。この日、「日韓学生フォーラム30周年記念パーティー」を青山学院大学のアイビーホールで開催し、そのとき、思いがけないサプライズで、「30年間ありがとう」と後輩達が胴上げしてくれた。今まで、後輩から誕生日サプライズがあっても全国から後輩が集まった中で、自分一人が代表して胴上げしてもらったことは生涯忘れることができない思い出となった。

6. 終わりに

ここ十年ぐらいの日本の学生をみると、韓国に友達をつくるのが目的でフォーラムに入り、音楽やドラマについては、韓国が先進国だと思っている傾向があり、一方、韓国の学生は漫画やアニメは日本が先進国だと思っている。特に漫画のストーリーの点については、褒めていることから、お互いに興味のある分野を話し合っていて楽しんでいる様子は微笑ましい。

最近の日韓の関係悪化は政治主導によるものだが、学生を見る限り日韓の関係が悪いとは想像し難い。国家間関係は互いにレスペクトし合い、そこから問題を一緒に考えていく姿勢が基本だと思うが、その姿勢を学生ができて、政治家ができないのに不思議な感情をもつ。これまで、日韓関係については小さな努力の積み重ねによって改善してきた。フォーラムもその一つだと思っている。今後の若い世代には楽しみながら良好な関係を築いてもらいたいと思っている。

